Exhibition Schedule 2023.4-2024.3

Calendar

◎休館日

4 Apr.

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

5 May

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6 Jun.

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

「新収蔵品展」
4月11日[火]−5月21日[日]

「光ーThe Light」
−4月9日[日]

「太田正樹コレクション展」
5月23日[火]−7月9日[日]

7 Jul.

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8 Aug.

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9 Sep.

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

「美術館のなかの書くこと」
7月25日[火]−9月18日[月・祝]

10 Oct.

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11 Nov.

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12 Dec.

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

「版画でひもとく聖書と神話：デューラーからピカソまで」
10月17日[火]−12月10日[日]

1 Jan.

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2 Feb.

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3 Mar.

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

「静岡の現代美術と1980年代」
2024年2月10日[土]−4月7日[日]

9月19日[火]−10月16日[月]、12月11日[月]−2月9日[金]は、設備改修工事のため休館します。

ロダン館では、近代フランスの彫刻家オーギュスト・ロダンの作品32点のほか、

Information

開館時間 10：00—17：30（展示室への入室は17：00まで）
※夜間開館等を実施する場合は、ウェブサイト等でお知らせします。

休館日 毎週月曜日
（月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館。8月14日［月］は開館。）
その他館内整備等のための休館日　※詳細は中面カレンダーをご覧ください。

観覧料

区分	一般 個人	一般 団体	70歳以上	大学生以下
収蔵品展	300円	200円	無料	無料
企画展	展覧会ごとに異なります。詳しくは、ウェブサイト、ポスター、チラシをご確認ください。			

団体は有料観覧者20名以上。企画展ご入場の方は、収蔵品展・ロダン館も併せてご覧いただけます。
身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその付添者1名は、企画展・収蔵品展ともに無料でご覧いただけます。
※事前予約制を実施する場合は、ウェブサイト等でお知らせします。

実技室イベント
さまざまな体験プログラムを実施しています。
スケジュールはウェブサイトまたはパンフレット「実技室プログラムのしおり」をご覧ください。

車椅子・ベビーカー
インフォメーションで無料貸出いたします。

デジタルアーカイブ
https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/archive/
館蔵品検索システムの他、池大雅《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》の高精細画像やオーギュスト・ロダン《地獄の門》の3D画像等をご覧いただけます。

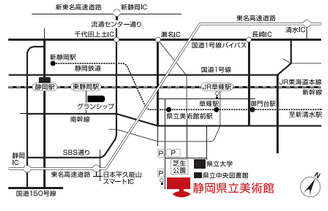
ミュージアムショップ Tel: 054-264-8926
展覧会カタログ、美術図書、ミュージアム・グッズ等をお求めになれます。

レストラン
喫茶、お食事が楽しめます。美術鑑賞の合間にお立ち寄りください。

友の会 Tel: 054-264-0897
常時入会受付中。詳しくは事務局にお問い合わせください。

交通案内

JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分
JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分または北口から静鉄バスで約30分
JR「東静岡駅」南口からタクシーで約15分または静鉄バスで約20分
静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分または静鉄バスで約3分
東名高速道路・静岡IC、清水ICから車で約25分、日本平久能山スマートICから車で約15分または新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分
周辺に大型バスを含めて約400台を収容できる無料駐車場があります。



お問い合わせ

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2　https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp
総務課　Tel. 054-263-5755　Fax. 054-263-5767
学芸課　Tel. 054-263-5857　Fax. 054-263-5742

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

つながる、次へ

表紙：村上隆《未知なる次元への旅立ち》（部分）
©2016 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.
中表紙：エルンスト・バルラッハ《読書する僧たちⅢ》

企画展

センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術

4月18日[火]−7月9日[日]

五感を駆使して、楽しみながら作品を鑑賞していただく展覧会です。大部分の芸術作品は視覚による鑑賞を基本としますが、本展では、作品の素材、モティーフや主題を、視覚以外の感覚器官（触、聴、嗅、味）や空間感覚、また記憶や想像力を働かせての鑑賞へと誘（いざな）います。インターネットとデジタルメディアの普及に伴い、現代では気軽かつ身近に芸術体験ができるようになりました。逆に本展では、ひとが元々もつ感覚によって、静岡県立美術館の多様性に富むコレクションを、現実（リアル）に感じ、味わっていただきます。

草間彌生《水上の蛍》2000年　静岡県立美術館蔵
©YAYOI KUSAMA

クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ《嵐の海》1740年頃
静岡県立美術館蔵

糸で描く物語　刺繍と、絵と、ファッションと。

7月25日[火]−9月18日[月・祝]

手仕事の温もりと美しさによって、幅広い層に人気を博している刺繍は、伝統的な装飾品から日用雑貨にいたるまで、様々な形で現代の生活に浸透しています。本展は、そうした刺繍をめぐるアートを複数の角度から紹介するものです。東欧の交差路スロヴァキアやトランシルヴァニアの伝統的な衣装やテキスタイル、独特の造形とあざやかな色彩によるプリミティブな作風が様々なアーティストにも刺激を与えているイヌイットの壁掛け、さらには、絵本の挿絵として制作されたのびやかな作品から精緻なオートクチュール刺繍まで、多彩な作例をお楽しみください。

左：サラ・イヌクプク
《ダッフル製壁掛け
〈お魚の話をするイヌイット〉》
北海道立北方民族博物館蔵
右：大塚あや子（刺繍）／
武井武雄（図案）
《『武井武雄手藝図案集』刺繍》
2016年　イルフ童画館蔵

大大名（スーパースター）の名宝──永青文庫×静岡県美の狩野派展

10月17日[火]−12月10日[日]

永青文庫は、大大名・細川家に伝来した作品を擁する美術館で、大名家伝来の作品を保管する美術館・博物館のなかでも屈指のコレクションを有しています。永青文庫のコレクションは質量に優れ、その内容は多岐に及んでいますが、狩野派作品の宝庫であることは、あまり知られていません。本展では、永青文庫の狩野派の優品を選りすぐり、当館の狩野派作品を組み合わせて展示することで、狩野派の名品を時系列に辿ります。狩野派の主流による名品で成り立つ両館のコレクションを掛け合わせ、狩野派の新たな魅力を発掘します。

左：狩野元信
《細川澄元像》
永正4（1507）年
永青文庫蔵
右：狩野山楽
《狩猟図》
桃山時代末
永青文庫蔵

天地耕作展（仮）

2024年2月10日[土]−3月27日[水]

天地耕作（あまつちこうさく）は、旧引佐郡（現浜松市）出身の村上誠、渡兄弟と山本裕司の3人によって結成されたグループです。1988年から2003年まで活動し、木や縄、石や土などを素材に、野外で大がかりな作品を制作しましたが、自身が所有する土地などで発表していたため、実際に鑑賞した人は限られている、知る人ぞ知る存在です。表現の根源を見つめる彼らのユニークな試みは、今また注目が集まっています。本展は、天地耕作の軌跡を、写真作品や豊富な資料で辿る、美術館では初となる天地耕作単独による展覧会です。さらに、未完となっていた2003年の作品プランを、およそ20年を経て当館裏山にて完成させる計画も進んでいます。自分たちの地で独自の作品＝耕作を生みだした、天地耕作の活動をぜひご覧ください。

上：山本裕司《氏神の祠》（旧引佐郡引佐町渋川）　1988-89年
下：村上誠・渡《産土ーその四》（旧浜北市姥ヶ谷）　1994年

収蔵品展

1. 新収蔵品展

4月11日[火]−5月21日[日]

寄贈により76件の作品がコレクションに加わりました。このうち、日本画2点、日本近代の版画3点と水彩1点をご覧いただくとともに、太田正樹氏からご寄贈いただいた70件ある現代美術作品を抜粋してご紹介します。

左：李禹煥
《点より》1976年
©Lee Ufan
中：棟方志功
《谷崎歌々板画柵
花見の柵》
右：秋野不矩
《芥子》

2. 太田正樹コレクション展

5月23日[火]−7月9日[日]

当館は、旧清水市（現静岡市）出身の太田正樹氏（1933～2022年）より、個人の資産を県民に提供したいとの考えにもとづき、平成20年度から令和4年度までの15年間に、優れた現代美術作品106件のご寄贈をいただきました。この展覧会では、地域の美術館を支える故人の意思を顕彰して、寄贈作品の中から選りすぐりの作品をご紹介します。

村上隆《未知なる次元への旅立ち》
©2016 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.

3. 美術館のなかの書くこと

7月25日[火]−9月18日[月・祝]

近年、書くことはデータが主体となり、ますます非物質的、非個性的になっています。本展では、当館の日本の近現代コレクションを中心に、書作品や文字が書き入れられた絵画作品、箱書きや画家の書簡といった作品・関連資料をご紹介し、書かれた文字の豊かさを振り返ります。

川村清雄《静物写生》

収蔵品展

4. 版画でひもとく聖書と神話：デューラーからピカソまで

10月17日[火]−12月10日[日]

西洋の歴史や文化の根幹を成す聖書とギリシア神話を主題とする版画作品をご紹介します。卓越した技術で表現された、絵でたどる物語の世界をお楽しみください。

左：アルブレヒト・デューラー
《放蕩息子》
右：サルヴァトール・ローザ
《イアソンとドラゴン》

天地耕作展（仮）関連企画

5. 静岡の現代美術と1980年代

2024年2月10日[土]−4月7日[日]

川俣正《袋井駅前プロジェクト1988》

天地耕作展（仮）の関連企画として、当館コレクションから、静岡の現代美術や、1980年代を中心とした同時代のアートシーンを示す作品をご紹介します。静岡ではアーティストの自主企画による様々な活動があり、そうした土壌の中で天地耕作は結成されました。本展では、天地耕作が活動を開始した当時の美術の動向を振り返ります。

静岡県の各地域の皆さまに、当館コレクションをご紹介する展覧会です。今年度は下記の通り開催します。

小山町総合文化会館　9月3日［日］−14日［木］
沼津市民文化センター　9月22日［金］−10月1日［日］

移動美術展